

大 豊 町 の 概 要

位 置	東經133度37分	北緯33度56分
面 積	320.54平方杆	東西 32杆
	南北 28杆	部落數 86
人 口	9,527 男 4,551 女 4,976	
世帶數	3,404	3月末日現在住民基本台帳調)



昭和58年5月10日発行

全 世 帶 配 布

編 集 館報大豊編集委員会

發行 大豐町中央公民館

印刷 高知印刷株式会社

昭和58

当初予算決まる 一般会計 2,498,262千円

年度

昨年引き続き緊縮型

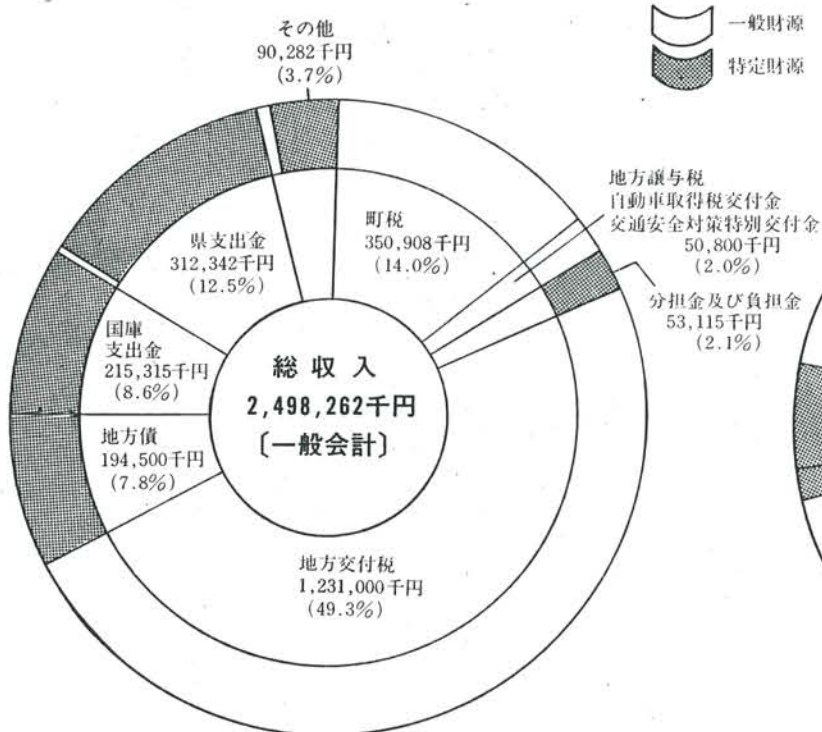
国保会計 727,160 千円

簡水会計 78,556千円

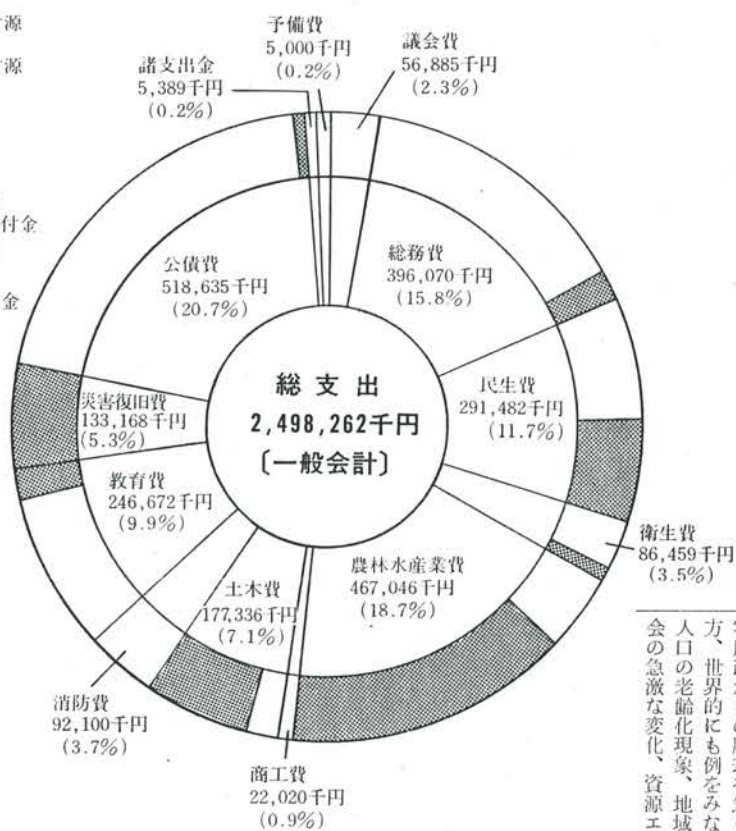
老人保健特別会計 1,059,509千円

代替輸送会計 13,783千円

歳入の内訳



歳出の目的別内訳



和」を基調とした
秩序ある行政の確立を

町長の所信表明

今、我が国は経済の低成長下のもとで、構造化した国、地方自治体を通じて赤字財政からの脱却を急ぐ一方、世界的にも例をみない人口の老齡化現象、地域社会の急激な変化、資源エネルギーと喜びを見出し、連帯

信 表 明

ルギーの制約更には国際経済摩擦の激化等々、きわめて厳しい道を歩むことを余儀なくされております。

その中にあって、住民の一人一人が生活の中にゆとりと喜びを見出し、連帯を基調とした地域社会を実現するため、行政が主体的に果す役割りが一層大きくなりつつあることも事実であります。

こうした変化への対応策の一環として政府は臨時行政調査会の答申に基づく行政改革を強力に推進しようとしており、これの具体化は昭和五十八年度国家予算に於いてですでに明らかにされてゐる所でありませう。

本町にとりまして、この事は例外ではなく、昭和五十八年度における行政運営は昨年比し、更に厳しさを加えるものと予測いたします。就中、財政事情におきましては正に累卵の危きにあると言っても過言ではなく、一步その運営を誤まらんか赤字団体に転落することは必至の状況にあります。これに加えて、昨年以来の政治的不安は必然的に行政の停滞となって表われていることも事実であります。

こうした状況の認識に於いて、私は絶えず「創業の精神（こころ）」を創業の士と子孫に訴へて参りました。それは本町の行政に秩序を回復し、内外の信用を回復するという言うべくして難かしい大業の成否はとにかくかつて人の和にあると考えるからであります。

昭和三十年續東 4 ヶ村が合併、大豊村として発足した当時、所謂本町の蒼生に期において、今はじき初代村長三谷泉水先生を中心として「和衷協力、融合一體」の旗にのしものも、累積赤字の解消に、新村建設計画の推進に、議会執行部そして町民が一元となつて取りくんだ「美わしい姿」すなわち「創業の精神（こころ）」を呼び起こすことにこそ現下の本町にとりまして極めて緊要の課題であると考える次第であります。

申しあげる迄もなく、自主財源に乏しく、中央に依存せざるを得ない苦しい財政運営の中ではあります。が、私は「和」を基調とした秩序ある行政の確立を前提として次の施策の実現に努力することを、ここに改めて表明いたします。

一、健全財政を確立すると共に予算の効率的運営を図ります。

二、産業の振興につとめます。

重点施策の概要

項 目		予 算 額 千円	構成率 %
一、安全な環境づくり		270,434	10.8
(1) 防 災 対 策		232,762	
1	災 害 復 旧 対 策	133,168	5.3
2	そ の 他 防 災 対 策	99,594	4.0
(2)	生 活 環 境 等 対 策	35,409	1.4
(3)	交 通 安 全 対 策	2,263	0.1
二、明るい社会づくり		342,130	13.7
(1) 老 人 対 策		80,218	3.2
(2)	心 身 障 害 者 対 策	13,971	0.6
(3)	母 子 児 童 対 策	132,396	5.3
(4)	保 健 医 療 対 策	54,438	2.2
(5)	町 民 福 祉 関 係 対 策	61,107	2.4
三、たくましい人づくり		247,462	10.0
(1) 学 校 教 育 対 策		199,778	8.0
(2)	社 会 教 育 対 策	25,782	1.1
(3)	体 育 振 興 対 策	9,899	0.4
(4)	青 少 年 婦 人 対 策	4,727	0.2
(5)	芸 術 文 化 対 策	7,276	0.3
四、豊かな町づくり		659,065	26.4
(1) 産 業 基 盤 の 強 化		391,273	15.6
1	道 路 対 策	391,273	15.6
(2)	産 業 の 振 興	267,792	
1	農 林 業 対 策	245,227	9.8
2	商 工 業 対 策	725	0.1
3	観 光 対 策	21,840	0.9
五、その他の行政経費		979,171	39.1
合 計		2,498,262	100.0

(1) 農林業については、各種制度、改善事業等を通じて自立農家専業農家の育成を図ると共に混合社会における安定した兼業農家の育成につとめます。

(2) 町内企業、地場産業の育成強化を図り、そこに雇用されている人達の雇用条件の改善、所得の向上に努め、以つて町内における基幹労働力の確保を図ります。

(3) 基盤整備事業を一層推進します。就中、防災工事、道路網の整備には従来以上に意を用い、町民が安心して生業にいらしめるよう努力します。この為、公共的事業量の導入には積極的に取り組みます。一方金額である本四連絡橋、四国横断自動車道の開通に併せて本町の対応すべき施策の具体化に懸命の努力をいたします。

(4) 教育と福祉の進展に努力します。

特に教育については、幼、小、中を一貫した所謂「大豊教育」を樹立するための土壌づくりを努力します。また町民総スポーツを奨励し、これを通じて明

るく心の通い合う地域社会の実現を図ると共に生涯教育を通じて、心豊かな町民の育成、たくましい青少年の育成につとめます。

(5) おとしよりを大切に、その活力を地域社会に生かすことを図ります。

町長の任務は町民が町政に何を望み、何を期待しているかを的確に把握し、これを施策に反映させる為の努力を怠らないことであると考えます。この為にも私は明瞭で秩序のある町政を樹立し、人事、経済、事業面等いささかも疑惑の眼をもつて見られることなく、民主的に行政を執行することを約束申しあげます。

ここに改めて町民の審判を得て御当選され、清新の氣に溢れる議会の皆様方を始め町民各位の温かい御理解と御協力を切にお願い申しあげる次第であります。

健全財政の確立と

産業の振興をめざし

役場職員の定期異動実施

住民課長 寛 義孝氏

産業課長 近 藤明氏

小笠原 俊信氏
阿波井 清次郎氏
氏勇退

出向派遣

県地方課派遣 小松 俊久

嶺北事務組合出向

老人ホーム大豊園 都 築 幹 夫

嶺北園 小笠原 和 則

消防本部 松岡 行雄

行政課

課長 小笠原 武生
課長補佐(総務担当) 原 勉
課長補佐(企画担当) 山崎 博資
企画班
班長 西村 弘
主事 島村 忠秋
" 岩崎 憲郎
" 佐々木 浪美子

土地開発公社
局長 西村 弘
主幹 森下 広文
庶務係
係長 豊永 正臣
主幹 松村 浩子
" 都築 康博
主事 吉川 幸
技術員 中西 金保
守衛 上村 雄喜
用務員 上村 コトエ

産業課

課長 近 藤 明
課長補佐 吉 永 礎
農政班
班長 三谷 隆啓
主幹 吉川 健栄
主事 前田 幸太郎
" 池添 修一
" 美濃 明男

町長 渡辺 盛男
助役 西岡 仁司
収入役 三浦 紀秀
教育長 重森 元亀
固定資産評価員 秋山 司

税務班
班長 小笠原 良延
主事 堀内 昭博
" 秋山 純夫
" 岡本 敏子
" 桑名 賢一郎
" 小笠原 隆徳
" 森岡 正志
" 西岡 里志

林政班
班長 小笠原 長猪
主幹 岡崎 桃江
主事 松岡 豊英
技師 秋山 満
商工係(兼) 係長 小笠原 長猪
主幹 岡崎 桃江

農業委員会

局長 上村 胤明
書記(兼) 吉川 健栄

財政係

係長 平石 安央
主幹 徳弘 洋一
主幹 田中 郷美
技師 上村 明弘

地籍調査班

班長 三谷 岳生
主事補 高橋 公仁
" 秋山 雅文

議 会

事務局長 杉本 信量
書記(主幹) 好永 公一
書記(主幹) 秋山 広子

選管・監査

事務局長 岡崎 聡
書記(主幹) 小笠原 征太郎

農林土木係

係長 上村 幸一
主事 前田 正茂
" 白石 和代
" 吉松 英寛
" 森山 英人
" 長野 佳彦
" 宮内 伸男
" 上地 信裕
" 三谷 裕一
主事補 藤岡 優二

出納室及び支所

収入役 三浦 紀秀
出納室長 阿佐 嘉浩
主幹 上村 佐智子
主事 宮本 一男

天坪支所

支所長 平尾 美砂
主事 松浦 延和

東豊永支所

支所長 山中 英栄
主幹 永野 和子

西豊永支所

支所長 三村 悦子
主事 北窪 康宏
(北村 直美)

建設課

課長 小笠原 英彦
課長補佐(事務担当) 佐々木 昭十郎
課長補佐(技術担当) 森尾 五郎

公共土木班

班長 松下 健一
主幹 松村 敬一
主幹 小松 和一
主事 佐竹 久護
" 佐々木 浩三
" 村山 祐介
" 笹岡 祐介

教育委員会

教育長 重森 元亀
次長 秋山 正治

教育行政班

班長 上村 仁
主幹 佐々木 香代子
主事 佐竹 幸

学校用務員

大豊中 佐々木 時子
大杉中 都築 栄子
西峰中 笹岡 三子
天坪小 門明 馨子
久寿軒小 小笠原 佳世
大杉小 松浦 美恵
川口小 真鍋 美鈴
立川小 秋山 芳江
穴内小 上村 郁子
大田小 北村 美紀
豊永小 渡辺 貴子
東豊小 小笠原 秋子
西峰小 鷹野 登志子

西峰保育所

主任保母 河井 宏子
代用保母 小笠原 由美子

大田口保育所

主任保母 氏原 敏子
保母 前田 喜代恵
" 北村 広子
" 寛 幸子
調理師 上村 真智子
用務員 村山 千春

研修指導員

山本 桂
補導教員 横山 大道
教育相談員 近藤 育子

補導センター

主幹 石原 延
社会教育指導員 堤 よし恵

保育所長

森下 良尾

大杉保育所

主任保母 橋村 千津子
保母 入野 光子
" 三谷 能生
調理師 西川 貞子
用務員 長野 公

東豊永保育所

主任保母 岡林 文子
保母 浜田 繁子
" 上西 京子
調理師 岡林 春美

天坪保育所

主任保母 秋山 美佐子
保母 嶋村 今子
調理師 西岡 日出子

衛生係

係長 杉本 周二郎
主幹 伊賀 笑子
" 下村 信幸
主事 小林 富紀
技師 森田 忠徳

ごみ焼却場

技師 高橋 隆身

福祉係

係長 大崎 隆子
主幹 山本 節子
主事 三谷 淳夫
" 大石 雅夫
主事補 坂本 諭

水道係

係長 安井 長由
主事 河野 大仁
" 今井 達也

住民課

課長 寛 義孝
課長補佐 三村 利重
課長補佐(兼) 社会福祉協議会事務局長 吉村 文男

窓口班

班長 永野 秀晴
主事 都築 美穂
天坪担当 主事 松浦 延和
西豊永担当 主事 北窪 康宏
東豊永担当 主幹 永野 和子

保険係

係長 西村 勝男
主事 上村 初子
" 西谷 和子
" 松岡 浩司

保育所長 森下良尾

昔の人は教育と言えばすべて勉強を教えることのようについていたようです。幼児の教育は、いわゆるお勉強ではなく小学校入学前の中心です。

育（性格は家庭で作られる）

幼児教育も教育である限り教育目標がなければなりません。その目標は教育基本法の人格の完成とか、幼稚園、保育所の心身の発達

の助長とかありますが、私は平凡に「人間の能力の全面発達である」と信じています。現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり

心です。その最も大切な性格は胎教から幼児教育までが、番大切な性格づくりの時期であります。

「氏より時」といいますが幼児の時見たり聞いたりしている事がしらずしらずのうちにその人の性格を形づくりまします。昔から「三ツ子の魂百まで」とい

しつけは自分での自分の運命を切り拓いていけを、ちな人問をつくることです。溺愛は子どもを駄目な人間にしています。なによりも

耐力の養成が大切であり、その芽を育てなければなりません。それは将来その子の生存にかかわるモラルです。克己、忍耐、抑制、節度、鍛練などは人間が人間であるため欠くことの出来ない徳目であろうかと思ひます。

私は「しつけ」というも

鎌倉	宏
技術員	晴郎
"	春子
"	枝美
調理師	恵子
給食員	美
"	
"	
"	
"	

大杉中寄宿舎

寮 母	華	岡	トミ子
調理師	山	中	静 恵
用務員	吉	村	洋 子

中央公民館

社会教育係

係	長	近	藤	英	雄
主	幹	朝	比奈	富美	男
主	事	上	村	典	義
主	事	都	築	純	一

さで生活を律し、自から子どもの模範とならねばならないと思います。

中教審答申における家庭

昭和五十二年六月文部大臣は、わが国における公教育に対する国民の信頼を高め人々の生涯を通ずる学習

を盛んにし、學術文化の振興を期するため中央教育審議会に対して「当面する文教の課題に対応するための施策について」の諮問を行いました。同審議会はこの諮問を受けて審議を重ね、昭和五十六年六月に「生涯教育」の問題として、その考え方を答申した。今後におけるわが国文教の指針となる極めて重要な意義を持つものであるといわれて

います。その答申の中でとりあげられている幼少期教育のあり方についての項を転載致します。「幼乳児期から青年期にかけては人間の生涯において最も著しく心身が発達変化すると共に豊かな可能性を秘めている時期である。

この時期に子供の人間形成に及ぼす家庭の影響は極めて大きい。一般に親の育て方に対する関心は知的教育殊に進学の問題が中心となり、基本的な生活習慣のしつけ、社会的や自制心の涵養などの面での家庭の本来的役割が必ずしも十分に果たされているとは言いがたい。乳児期から幼少年期にかけての家庭教育は子供の基本的な性格を形成する上で重要な意義を持つ。

またこの時期には子供の知・徳・体の調和のとれた全人的な発達を促すことが大切である。このためには子供の成長発達の過程殊にその依存と自立の過程における親の存と自立の方が重要であり、子供がそれぞれの時期において獲得していかねければならない。発達課題を確実に身につけていくことができるように親が子供に働きかけ、これを助けしていくことが重要である。殊に子供に遅しきや物事にいどな積極的な気概が不足しがちであり子供の気力や粘り強き自発性を培うことは家庭教育における一つの課題である。

また、子供は家庭との全面的な触れ合いを通じて成長していくものであるから

家庭の教育機能としては、意図的な教育ばかりでなく、意図しない家庭内での成人の生活態度そのものも重要な意味を持っている。したがって子供の人間形成に及ぼす家庭の生活態度や行動に十分留意しなければならぬ、とありまして幼少期教育の家庭における生活習慣を大変重視しています。

昔から「嫁をえらぶには母親を見よ」といわれています。親の子供に与える影響は恐いほど大きいのです。全く白紙の乳幼児をどのように染めあげるのかそれは親の責任です。

家庭教育というものは専門的な知識を必要としません。庶民の健全な生活習慣を確かなものにつける事

だと思ひます。初めにつける習慣が大切であるという事は人間生活のすべてに通じます。大事にされすぎないようにされた子どもは自己抑制ができなかったり、困難に耐えられない精神的にひよわな人間になる可能性をもっています。

大まかなしつけは、どこかの家庭でも出来ていると思いますが、小さな事、細かいところは見逃しがちで



す。しつけの一番大事な点は、この細かいところで決まるのです。「神は細部に宿る」この言葉を私は常に思ひます。すべての本質は、幼児期にある、言うならば、その人の運命を決めるルーツは幼児期です。

「教育の中で一番大切な事は、家庭における生活習慣である。」これは明治の先覚者福沢諭吉の有名なことばです。

5月11日～20日

■ 昨年の死者数(全国)、6年ぶりに9,000人を突破

わが国の自動車保有台数は、二輪車を含めて五千六百万台に上り世界第一位の保有台数です。また、運転免許保有者は四千七百万人を超え、運転免許適齢人口の二人に一人は免許保有者となっています。これらの数字は年々増加しており、保有台数は年間で三百万台免許保有者は二百万人と確実に増え続け、まさに本格的な車社会、国民皆免許時代を迎えようとしているのです。

一方、交通事故による死者数は、この数年ほぼ横ばいで推移していましたが、昭和五十七年以來は前年に比べ三百五十四人（四・一％）増加し、昭和五十八年以來六年ぶりに九千九百人を超えました。これらの事故の特徴を見ると、スピードの出し過ぎにより単独でガードレールなどにぶつかる事故や、車同士との正面衝突などの無謀運転や運転技術の不熟さによる事故が多発しているのです。

今年も五月十一日から二十日までの十日間、春の全国交通安全運動が実施されます。多発する事故の特徴をふまえて、次の三項目を重点に運動が展開されます。

- ① 歩行者および自転車利用者、特に子供と老人の交通事故防止
- ② 二輪車の安全利用、特に交差点での安全確認の励行とヘルメット着用の徹底
- ③ 安全運転の確保、特に交差点での安全確認の励行とシートベルト着用の推進

この運動を契機に、ドライバーの皆さんは、もう一度、安全運転の原点に立ち返り、万全の注意を払いましょう。

ミニバイク

安全運転

三つ

1

交差点では
安全確認を

交差点でのミニバイクの事故が多く発生しています。

交差点では必ず一時停止をして左右の安全を確認しましょう。また、右折するときは直進する対向車に気をつけましょう。



ポイント

クのついたものをかぶり、あまひもをきちんと結びましょう。



3

ミニバイクの
制限速度は
時速三十キロ

2
ヘルメットを
かぶろう

スピードの出し過ぎは大きな事故につながります。時速三十キロの制限速度を守り、安全運転に努めましょう。

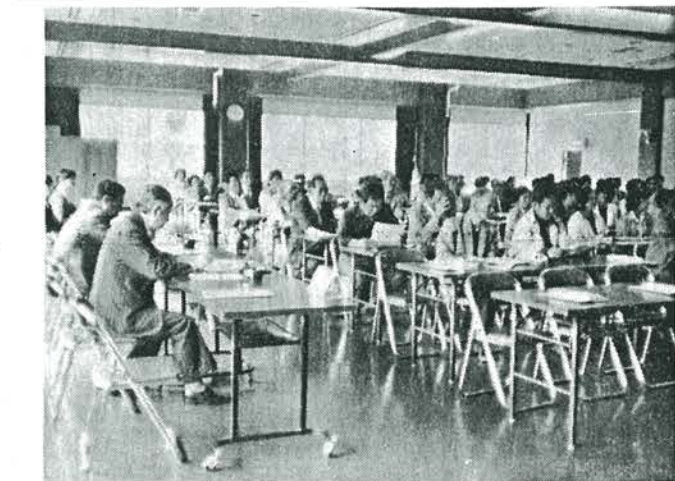


昭和58年度

保健班長ならびに
健康づくり婦人会
合同研修会

小澤秀樹博士の講演も

四月二十六日、農工セン
ターの大ホールで百五十名
余が集り、今年の健康づく
りの会が開催された。まず
まず高齢化の大體として
まず第一の行政課題である、
健康について、町長は挨拶
の中で、本町は今や第二の
過疎を迎えつつある。全国
的にも高い高知県の高齢化
社会、その中で、大豊町民
の健康をいかにして守るか
それはいつに、保健班長
や、婦人会の活動にある。
本町が特に力を入れている
、成人病、循環器病、検
診が日本の最高の医療機関
いと結んだ。午前中は、住
民課の、衛生係長、杉本周
二郎氏と保険係長、西村勝
男氏から、それぞれ係の仕
事についての実績や現状の
説明がなされた。午後は、
国立循環器病センターの検
診部長、小澤秀樹博士によ
る、成人病についての講演
があり、いよいよ五月中旬
から始まる同センターの検
診に町ぐるみでの取り組み
が話し合われ、自分の健康
は自分で守る事を合言葉葉
に、該当事者、百名受診を
標にがんばることが確認さ
れた。



成人病検診始まる

五月中旬から、国立循環器病センターの先生方による、成人病検診が実施されます。町民こそって、特に働き盛りの方々の受診を望みます。

日程の一部を
お知らせ

五月十一日	農工セクター
五月十二日	〃
五月十三日	穴内会館
五月十四日	岩原セクター
五月十六日	東豊永公民館
五月十七日	〃
五月十八日	豊永小学校
五月十九日	大田口小学校
五月二十日	〃



連 合 婦 人 会
部 落 会 長 研 修

58
年
度

◆連合青年団◆

新年度役員

團長 小笠原一夫君

大豊町連合青年団では、去る四月八日、農工センターで58年度総会を開き、57年度事業報告、同決算、などを審議し、後、58年度の新役員の選出を行った。選挙の結果、新年度役員は次の通り。

團長	小笠原一夫	中村大王
副團長	藤岡 優二	田
副團長	永野 桂子	仁尾ヶ内
事務局長	三谷 勝正	大 平
事務局次長	美濃 知恵	中村大王

土地	仁安野々
吉村	弘幸 東庵公
監事	
小笠原德孝	仁尾ヶ内
小笠原正幸	南大工
土地 信男 役	堀
五八年度各地区区長	
大杉 美濃 明男	
立川 横山 康二	
大田口 吉村 弘幸	
東部 小笠原清幸	
東豊永 三谷 正水	
西 峰 三谷 浩章	
県青協理事	
小笠原一夫	
嶺青協理事	
高橋公仁、大坪仁美、	
西村由香	

青年教室運営委員長

小笠原徳孝君を選任

五十八年教室の中央公民館、お互にマナーを守ろうと、主催の青年教室は、新年度の運営委員長を、小笠原徳孝君を選び、今年の研修活動計画などを話し合った。青年教室の皆さんが苦勞様でした。

「こんなこと？」と
思うものでも
警察へ
本山警察署より
電話 0887761-2430

犯罪がますます巧妙化、スピード化している中で、社会は複雑となり、更に地域の連帯意識が薄れ、な、捜査は年々困難になっています。捜査活動は、警察だけの力でできるものではなく、県民一人ひとりの協力が必要です。犯罪について見たり聞いたりしたことは、どんなことでも結構ですから、最寄りの警察ま

で、通報をお願いします
○事件の発生を知った場合は、すぐ一〇番を……
○犯罪の被害に遭った場合は必ず届出を……
○間込みに協力を……
あなたの「小さな情報」で大きな事件や身近な罪が解決し、安全で平明るい社会がつけられます。是非協力をお願いします。

電話 088776-2430

町執行部・議会と
対話集会も
大豊町生活会議

恒例になっている。連合婦人会の新年度各部落の会長研修が去る四月二十八日農工センターで実施された。当日は行政側の関係する係から行政伝達があり、又、地区の会長、部落の会長としての役割や、町の国保や、老人、一般会計などの財政事情の説明などがあり午前中一ぱい研修が実施された。出席者は60余

対話集会には、町長、助役、各課長等が出席、議会からも多数の議員さんの出席を得て、小笠原恒子さんの司会のもと、生活会議の主体メンバーから、意識調査の各項目について、質問したと云う形式で進められた。この意識調査は一昨年来の大豊町の混乱の中で、住民が、政治や、選挙につ

主体メンバーからは、公民館報や議会報の問題、町職員の適正人員など、昼休みの窓口業務の事などが出された。町長は近く発足する行政組織検討委員会で、それぞれの問題について本年度中には結論を出したいと答えた。又昼休みの窓口業務については、急ぐ人には現在もサービスしているところであった。

舟戸簡水拡張工事完成

『国民年金積立金還元融資制度を受けて』



編集後記

メーデー、十八夜、奉
法記念日、端午の節句、母
の日、愛鳥週間と続くこの
季節、東向の我が家、六時
二十分には陽が射す。
◇若葉の中、小鳥のさえず
りしき、五月はいいい
爽やかな朝、生きる欲びが
みなきる。
◇オーイ早よう起きいよ、
「うなぎ」がにげるぞ、こ
の季節に始まる、つりでは
漁眠い目をこする、それだ
も時に四〇Bあまりの女
ものもこれたものです。と
く父と漁に行ったものだ。
◇ホトギスはね……あまね
鳴くもんだから口の中が紅
くなった。テツペンカケ
タカと聞えること、
けん坊起きたかと鳴きよる
かもねえ……寝房助だつ
た私のあだ名をもつて母
に、からかわれた事も。
◇これが母子草、草花の多
もずい分母に教った、一人
っ娘だった母、どんな気持
ちで我が子に、この花の名
を教えたのだろう。
◇母の日に、母は亡く、五
月の空に泳ぐこいのぼりや
ななせかきりに父母のこと
が想い出される。